

師走を迎えて

分所長 高木 敏彦

令和三年も早、師走を迎える頃となりました。コロナコロナに振り回されたこの2年間で、徐々にはありますが、諸行事も再開し実施されるようになってきました。

碧南分所の直会はまだ中止を継続していますが、来年の春の大祭までには復活したいと願っています。

後継者育成として祭式の習得を勧めるために祭式講習会の実施を分所で行いたいと考えています。各ご家庭の月次祭の実施をご家族の皆様と一緒にしてその後の楽しい直会を行い誕生祝を行うなどして団欒の場を作ることが自然に神様に向かうキツカケになるのではないのでしょうか。是非ともご家族を講習会に送り込んでください。

母(大塚享子)の願い

神谷 章子

30年ほど前私が出口京太郎先生宅にてご奉仕をさせて頂いた時の話です。私は当時和歌山出身の方と二人でご奉仕をしておりまして、季節は忘れてしまいましたが、ある日のこと、京太郎先生が「庭先から急いで空を見てください。二体の龍が見えますよ!」と言われ、二人で庭先から空を見上げると、とても綺麗なオレンジと緑の龍が、自然の法則では考えられない位置より見え、少し経つとその二体の龍が鳳凰と変化しそして見えなくなりました。今でもその光景を鮮明に思い出します。忘れることのできない不思議な体験をしました。

またある日の事。ご奉仕ではありませんがお給料も少し頂いておりましたが、二人の会話の中で「ちよつともう少しお小遣いが欲しいねえ〜」なんて話をしていたときに、突然黛子様より「ハイ!これ京太郎先生から」と寸志と書かれた封筒を頂き、中身を見るとお金が入っておりました。もう二人とも驚きと恐れとで二度とお金のお話などをするのはやめようねと話をした事もありました。そんなエピソードもありながらご奉仕の期間も終わり、お隣にお見えになりました三代さまにご奉仕終了のお礼のご挨拶に伺いました折、お下がりにも果物(みかん)を頂き京太郎先生宅に戻ると、ご家族や他の奉仕の方に「良かったなあー食べ物頂いて」と言われ「どうしてですか」と伺うと「物を頂くと二度と聖地に戻ってこれんのよ」といわれました。後々、亀岡や綾部にお参りさせて頂く度にこのことを思い出します。

大塚家のお墓は母の希望で綾部の奥津城にお墓を立てました。父が健在の時には私達家族と旅行がてらに年に一度は長生殿、奥津城とお参りをしておりました。父も綾部にこのことでしたので、今は私達家族で年に一度は父母のお墓参りにいきます。長生殿、奥津城とお決まりコースで。

昨年は私達家族と娘夫婦で長生殿参拝とお墓参りにいきました。私の夫、お嬢さんは未婚者であります子供たちも中々家での普段のお参りもできておりませんが、お墓参りに行くことをきっかけに私達家族みんなが大本を知る事、又長生殿に参拝する事が父母の思いであったのかなと、ふと思つております。私が長

生殿に参拝出来ることも有難くまた連れて行つてくれる夫、ついて来てくれる家族にも感謝し、綾部に年に一度は参拝出来ることを願っています。また、父母も喜んでくれていることと思ひます。

主な行事予定

- 二月二日(日) 午後一時半より 碧南分所月次祭 担当第一班
- 二月十九日(日) 午前10時より 三河本苑月次祭・全体会議
- 二月二十六日(日) 誠心会万祥殿献勞奉仕 令和四年
- 一月一日(土) 午前九時より 碧南分所元旦祭
- 本苑新年祭 午前二時より
- 一月九日(日) 午後一時半より 碧南分所月次祭 担当第二班

一二月の誕生者
おめでようございます!

蒲生 昌直	二月二日	奥谷 孝	二月三日
坂部 真司	二月三日	澤田 俊絵	二月五日
坂部 文彦	二月九日	市古 正弘	二月一日
蒲生 眞矢	二月一日	坂野 愛	二月三日
鈴木 明美	二月四日	小川 隆	二月二日
高橋 英吉	二月一日	坂野 花	二月三日
蒲生 旭	二月三日	石川 雅祥	二月五日